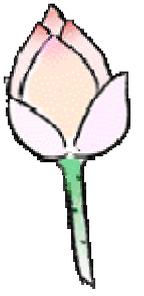


天目



勤続三十年 全ての人に感謝

栖雲寺檀信徒の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年の出来事になりますが、二月に鎌倉の大本山建長寺に於いて、永泰寺住職勤続三十年の表彰を受けて参りました。管長様より表彰状を賜り、心新たに住職としての残りの勤めを努力する誓いを立てました。この間いたらぬ住職を支えてくださった永泰寺・耕念寺、そして栖雲寺の檀信徒の皆様には心から感謝を申し上げる次第です。

三十年の間で特に心に強く残っているのは、平成元年より平成二十年までの天目山栖雲寺兼務住職としての二十年です。昭和六十三年の十月に栖雲寺の庭に立った時、そのまま帰ろうかと思つた程のあの日が懐かしく思い出されます。というのも、本堂は雨漏り、庫裏も中から天井を見上げれば星が見え、まるでプラネタリウムを見るように穴だらけで修復は困難だと感じたからです。大原さん、吉成おばさん、総代さんや檀家の皆様と接していくうちに、この建長寺四大柱寺の一つである栖雲寺をできる限り復興したいとの思いに変わり、栖雲寺始まって以来の大修復と銘打って皆様に相談とお願いをいたしました。檀家総会でも「今ここで何とかしなければ後の世にこの寺を残していけなくなる」とのこと、大修復事業がたった一度の会議で承認されました。この事は本山の管長や宗務総長はじめ和尚様方を驚かせたものです。

庫裏の解体修理、本堂の大修復、石庭会館の建築、摩利支天堂の新築など、挙げればまだまだ沢山の出来事が思い出されます。

今日大勢の方々が参拝してくださるのも、あの時檀信徒の皆様が踏ん張った結果だと本当に感謝いたしております。無力な住職を方丈さん方丈さんと支えてくださった心は一生忘れません。今後は若い住職をあの時のように支えてくださるよう心からお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

甲府市 永泰寺住職 青柳雅明 合掌

※昨年永年勤続の表彰を受けた永泰寺住職（私の父）に執筆をお願いしました。

本堂を改築

本堂の下間は、長きにわたって物置として使われてきました。またお寺のおばさんが生活の場所として使用していた時期もあり、簡易浴室とトイレも併設されていました。おばさんの一周忌を迎えるにあたり、浴室とトイレを撤去させてもらい、部屋も内装を整えました。

七月末に完成したので、八月三日のおばさんの一周忌ではお参りの方の食事処として使用し、現在は少人数の坐禅会などに活用しております。

合わせて本尊様の下の空間を利用して収納を作り、下間に置かれていた備品などはそちらへ移動しました。



宝物風入れ展で囲炉裏カフェ

これまで宝物風入れ展の喫茶席は石庭会館に開設して抹茶をお出ししてききましたが、せつかくの囲炉裏を有効利用しようと思いい、そしてまた遠路ご来山いただき



いた方と少しでもお話しようと思いい、囲炉裏カフェをオープンしたところ、皆様から好評を博しました。私が手作りしたお菓子のほか、珈琲・紅

茶・ハーブ茶・緑茶・ほうじ茶などをお出ししましたが、参拝者の憩いの場になったでしょうか。また折に触れてオーブンしてみようと思いいます。



平成二十七年の予定

三月十八～二十四日	春季彼岸
四月十九日	摩利支天大祭
七月十五、十六日	盆棚経廻り
七月二十六日	開山忌 並びに 故吉成カツヨ三回忌
八月十三日	盆棚経廻り
九月二十～二十六日	秋季彼岸
十月四日	大施餓鬼会
十一月六日、七日	宝物風入れ展
十二月三十一日	除夜の鐘

※秋には大本山建長寺への参拝も予定しております

信満公 六百年遠諱

二年後の平成二十九年二月。天目山で自害した甲斐武田十代目、武田信満公の六百年遠諱を迎えます。

中世の栖雲寺は武田とともにありました。その恩に報いるべく、法要や境内整備のほか、様々な事業を計画中です。皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

※坐禅会、法話、写経会、境内案内等、可能な限りお受けします。電話でお気軽にお問い合わせください。